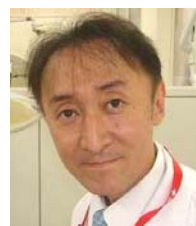


歯根破折の画像診断

—各種画像診断法の検出精度について—



東北大学大学院歯学研究科 口腔診断学分野 講師 飯久保 正弘

近年、永久歯抜歯の原因として、齲蝕や歯周病に比較して歯根破折の占める割合が増加しており、歯根破折の診断は今日の重要課題とされています。これまで歯根破折の画像診断には口内法エックス線撮影が頻用されてきましたが、エックス線の投影方向が破折線と一致しない場合や破折線の幅が薄い場合の診断は容易ではなく、抜歯後にはじめて歯根破折が確認される症例も少なくありません。近年の画像診断の進歩に伴い、歯根破折の画像検査に大きな期待が寄せられており、現在、NPO 法人日本歯科放射線学会では、平成 23 年度歯科医学会プロジェクトとして「歯根破折歯の画像診断ガイドライン作成のためのプロジェクト研究」を行なっています。そこで今回私は、各種画像診断法の歯根破折検出精度やその問題点について、これまで行なってきた一連の研究結果を述べさせていただきます。本セミナーをきっかけに、現在臨床の場で顕微鏡下に破折線を直視されている先生方の御意見をいただき、「より診断精度の高い画像診断」について共に考えていければと思っています。

演者略歴

平成 6 年 東北大学歯学部 卒業

平成 6 年 東北大学歯学部附属病院口腔診断・放射線科（現：東北大学大学院歯学研究科口腔診断学分野）研修医 医員

平成 10 年 東北大学歯学部口腔診断・放射線学講座 助手

平成 18 年 東北大学大学院歯学研究科口腔診断学分野 講師

現在にいたる